



けやきっ子

東根市立東根小学校
学校だより

No. 11

令和3年2月25日発行

大けやきの根開きに思う

校長 長瀬 広幸

大けやきの根元に土がのぞき始め、それが日に日に大きくなってきました。雪国の春を告げる『根開き』と言われる現象です。そうになると待ち遠しかった春が駆け足でやってきます。

根開きが起こるのは、木の温かさによるものと言われています。木は地中の水を吸い上げますが、その水が外気よりも温かいため、木の周りの温度が高くなり、そこだけがいち早くとけ始めるのだそうです。昨年末に、大きく枝折れした大けやきですが、春の芽吹きに向けて盛んに水を吸い上げています。1500年以上の歳月を生き抜いてきたたくましさを感じずにいられません。

雪どけと共に、令和2年度も間もなく終わりを迎えようとしています。大雨による水害、大雪による雪害、そしてコロナ禍と決して忘れることのできない出来事が数多くありましたが、ひたすら前を向いて進んでいくことが未来を生きる私たちの使命であることは間違いありません。学校の教育活動についても、できない理由をさがすのではなく、どうやったら安全にできるのかを前向きに考えていくことが大事です。これは、子どもたちが主体となる児童会活動も同じです。できないことを嘆くのではなく、できることを工夫して探していくというスタンスを大切にしたいものです。東根小の目玉行事である「ふれあい楽校」がコロナ禍で中止になったとき、6年生は1年生にその楽しさを味わわせたいという願いから、自分たちで屋台を工夫して実行し、1年生を喜ばせました。これこそが、これからの時代を生き抜く柔軟な思考と対応力だと思います。困難な中ではありますが、皆で知恵を絞り協働してやり遂げたこと、その成就感と喜びは、これからの生活に生きていくものと確信しています。

今年度の学校評価の中で、「子どもたちは、楽しく学校生活を送っていますか」の項目について、保護者の皆様の98.5%が肯定的な回答をされていました。子どもたちの回答も、最も肯定的な「そう思う」が、昨年度と比較して11%アップしました。困難な中ではあったけれど、充実した生活を過ごすことができたことをうれしく思います。学校生活は、誰かが楽しくしてくれるのではなく、自分たちで楽しさをつくり上げていくものです。指示通りに動いたり、させられたりするのではなく、自分たちで考え行動し、つくりあげていく喜びがそこにあります。まだまだ、コロナ禍の先行きは不透明ですが、子どもたちが自分の頭で考えて行動し、しっかりと成長していることは間違いありません。大雪に耐えて根開きした大けやきのように、この状況に耐えて東根小学校の子どもたちはよりよい未来へ進んでいきます。

